大和市立中央林間

令和４年７月１日

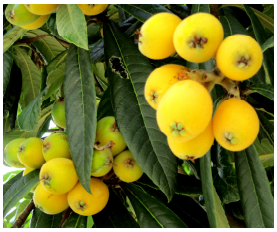
学校だより

７月号

http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/s-chu/

学ぶ力を引き出すために

校長　　吉田　美佳



新校舎と体育館の間にあるびわの木に、たくさんの実がなっていることに気がつきました。きれいな山吹色や橙色の実は小ぶりですが甘い香りを連想するほどたくさん実っていて、下の方の実は手が届きそうです。昭和の時代ならば子どもたちと実を採って一緒に味わっていたかもしれないなと思いつつ、びわの実は鳥や虫たちの栄養になっています。

６月９日（木）の授業参観には、お忙しい中多くの保護者の方にお越しいただきありがとうございました。授業参観では端末の Chromebook を使用した授業も見かけたことと思います。昨年度より「GIGA スクール構想」で整備された一人一台端末は、「知識の詰まった学習資料としてのツール」「情報をやりとりしたり、発信したりするツール」「達成度の確認と学習の定着を図るツール」として、本校でも授業や授業外での活用を模索しているところです。端末が導入されてから、学校では Chromebook の機能を学びながら効果的な活用場面を探求しています。低学年は、アルファベットの読み方を学びタイピングの練習もしながら、ログインや入力をスムーズに行えるようにしています。中学年になると、自分の考えをデジタル上の付箋に書いて送り、友だちと考えや情報を共有し交流しています。また、理科の実験や体育の動きなど学習の記録をカメラ機能により動画や静止画で保存し、次の学習に生かしています。さらに高学年では、調べたことや撮影した画像を活用してプレゼン資料などを作成し、テレビ画面に投影して発表しています。

様々なアプリ機能を使いこなして学ぶ子どもの姿を見ていると、端末はより強力な学習道具となる可能性を感じます。その可能性を引き出すためには、学校だけでなく、家庭・社会と連携しながら、子どもたちがこれから十年、二十年後の社会で ICT のよき使い手となるよう、私たち教員もともに学び続ける教師でいなければならないと感じています。

ICT は、単に子どもの学習支援ツールにとどまらせないように、教師は子どもの学ぶ力を最大限引き出す授業をデザインすることが大切です。「何のために」、「何がしたいのか」が先にあって、ICT の選び方、使い方が決まり、価値が変わります。

大和市では個人の習熟度に合わせて学べるリクルート社が提供するオンライン学習教材「スタディサプリ」を新規利用することになりました。「スタディサプリ」は、個々の習熟だけでなく、探求学習における活用も考えられます。

これからは、ICT を学習のツールとして鉛筆のように当たり前に使うものになってくるでしょう。その中で児童の力を引き出し、学び方を学ぶためのツールとしてこの ICT 環境を生かしていく必要性を感じています。一人一台端末環境を、授業づくりや児童の学びにおいて、未来に向けて伸ばすものにしていきたいと思います。